

ふるさと奥尻通信

平成24年7月25日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

ジリジリと照らす太陽に身も心もぐったり？いやいや、島人なら気分もハイになってくるはず。むかし、”夏男夏女！”ってCMあったよねー。懐かしいねえ(95年らしい)。そんじゃ夏島人でいきましょ。

特集 奥尻島の太古をさぐるー”宮津の沢”化石探索記ー

「奥尻島はいつから島だったのさ？」とよく聞かれます。私は、「地球規模の地殻変動の過程で、奥尻島は沈降したり隆起したりを繰り返して現在の形になったので、島の一部は海の中であり、一部は陸地になっていたんですよ。だいたい1600万年前くらいに離れ島になったようです」と答えます。結論を言いますと、そんな太古の昔のことは不透明であるのが普通で、明確な答えはなかなか出ないのです。しかし、そのような中途半端な回答では皆さんは納得してくれないし、現地を見ずに文献に頼るのも学芸員の回答としていかがなものか…。

そこで、現地調査へ乗り出しました。かねてより、宮津地区の通称”宮津の沢”の上流では貝化石が採れるということが知られていましたので、奥尻島文化研究会のメンバーを誘って、野外見学会を兼ねての探索が始まりました。沢沿いにしばらく登りますと砂防ダムにぶつかりますが、迂回してさらに進みます。すると2つ目の砂防ダムにあたり、これ以上は急斜面で登れません。けれども、ちょうど足元で化石の包含層を見つけたので、標本採集のために掘ってみました。目的は、過去に奥尻で発見されたビカリア化石の再発見なのですが、なかなか見つからずに二枚貝ばかり。結局、ビカリエラ(中身)は見つかったのですが、ビカリアは発見できず。マテガイの仲間やニッポノマルシャなどを標本として少々持ち帰ってきました。



沢を探索中



化石の包含層



ビカリエラの…中身(残念！)



現在のマテガイ



マテガイの仲間

☆奥尻島で見つかる貝化石☆

- マテガイの仲間
- オクシリイシカゲガイ
- ノムラカガミの仲間
- バイガイ
- スタレハマグリの仲間
- ビカリエラ
- ビカリア
- などなど

で、ビカリアってなにさ!?

- ・キビウミナ科ビカリア属の巻貝。
- ・新生代第三期に繁栄するも絶滅。
- ・示準化石(めじるし)となっている。
- ・奥尻島から長万部にかけてが生息域の北限のようだ。

画像は第33号をみてね。

この宮津の化石は、今から1600万年前の、地質時代区分でいうところの新生代新第三紀中新世のもので、奥尻島の地質区分である、釣懸層の砂岩部層から産出します。気の遠くなる太古の昔ですが、生物の進化の過程から観ると、まだまだ現代に近い世代です。ちなみに、アンモナイトの時代は4億年前の古生代デボン紀から6500万年前の中生代白亜紀までです。そうそう、最近では上川地方の中川町で、9000万年前のナカガワニシンの化石が出たという報道もありましたね。このように北海道各地で色々な化石が出ているのです。

さて、まとめの時間です。宮津の沢の上流から貝化石が出るといことは、当時は海であった場所が、現在では隆起して陸地になったことになります。さらに、出てくる貝類は温暖な地域の物ですから、当時の奥尻島周辺は今よりも温暖な気候であったことも判明します。マングローブの林が広がるような熱帯の風景が想像されます。

豊富にみられる化石ですが限りあるものですし、奥尻の歴史的遺産ですので、興味本位で乱獲しないようにしましょう。また、急斜面や崩れた崖が続きますので、現地観察の際は、足元ばかりに気を取られず、頭上に注意しましょう。

夏と言えば、夏休み、そしてとにかく夏祭りでしょう！ということで、今回はかき氷製造の道具をご紹介します。田舎の商店や祭りの露天でシャリシャリと音を立てて削り出されるかき氷。透き通った角氷がクルクルと回転し、あつという間に粒になって出てくる。これに明るい色合いのドロップとしたシロップをたっぷりかければでき上がり！スプーンでザクッとすくって食べれば、頭がキーンっ！痺れる感覚が病みつき…。

今では冷凍庫で簡単に作れる氷も、明治の始め頃までは、遠くアメリカのボストンから輸入していたのです。輸送中に溶けて目減りするので大変高価な代物でした。そこで製氷を国産化し、安価で提供するという事業に取り組んだのが函館の中川嘉兵衛(文化14年:1817~明治30年:1897)です。彼は明治4年の厳冬期に、五稜郭の堀が凍結することを利用して、高品質の製氷に成功しました。それを「函館氷」として売り出したことでボストン氷を一挙に駆逐したのです。

手回し式の氷削機は昭和初期に普及したようです。モノの成り立ちを考えながら食べると、かき氷の味もちょっと違ったもの感じられるでしょう。



桐印の氷削機



五稜郭の堀での製氷風景 明治期絵葉書



月刊 奥尻のつり 7月号

奥尻島での磯釣りシーズンも前半戦がほぼ終了です。海の味覚は次第にウニとアワビの時期に移行ですね♪イカもたっぷりあるし。さて、前半戦の大物釣りの状況を振り返ってみます。ホッケ:50cm(宮津港)、カジカ:54cm(東風泊)、カレイ:46cm(北国岬)、マガレイ:29.5cm(北国岬)、アブラコ:48.5cm(東風泊)、マゾイ:40cm(ペンキ岩)、ハチガラ:31.4cm(ホヤ石)、ガヤ:31cm(宮津港)、エゾメバル:32.5cm(奥尻港)などなどです。数えてみると、前半の6ヶ月で18回も釣行していました！秋までしばらく休憩です。



奥尻これなんだろう？ 第4回

球浦のババ崎の手前に大きな△形の看板がふたつ立っているよ。さてさて、何を知らせる看板なのでしょう？

先月の答え:蛇虫(じゃむし)ゴカイ科の動物。



港内でイカ漁していると、ウニウニ〜とかごに入ってくるんだとか。それにしても気持ち悪い格好ですね。宮津のスーさん、情報提供ありがとうございました。

ま道和しの族は霊講が涙のし陣やな人會松行話、雨日十二たもかが達へ江事が各のと二。一ならで何へが、小一な日感緒霧供集い初行津中日りは謝に困養まま松わ波でとま十九。お気すりし前れ館はなし九世でる、た〜まで避りた回話しと飲が地しは難ま。目にたいみ、区た各訓し朝のな。う食地の。種練たか慰り報、い域遺私慰やら霊

震災十九年しめやかに



復興の森のブナ

期記常岸代なたらは大そくひが待事に部表奥。れ、部の案とあ先日。でを珍にす尻づる島分八内つり日。す読し密る島ナよ外が〇しでま、ねんい生植なうでブ%まあしJ。だ存す物ら森にもナがしるてR。人在于でではなだ林森たブ、車達なブ、は、つんで林。ナ奥内。ののナ長の高てだあで奥林尻誌。来では浜植温きんる、尻をのの島す、の生多まところそ島詳の取に。非海を湿し知とのはし材

7月の森が特急に乗る？

昨年復刊した本通信ですが、1周年の節目となりました。なかなか話題が見つからない時もあるのですが、外を歩いて、島の人達と会話すると、自然に題材が見つかるから不思議です。やはり”歴史と文化は足元から”ですね。灯台下暗しの諺の通りです。そうそう、磯釣りでも足元からの方が大型の根魚が釣れますしね♪(最近カニ釣りに興味を持ったしんた)

新条之記録(編集後記)

方り様すに訓か意民沖岡ででおまに。つをに識の地田参、今年願すお現い次しへ生震教加稲年度いが世地て世、及活後授し垣度。申、話調考代復ほ環二をても発しごに査察へ興し境〇代い地足上面なです継街たの年表ま元したげ倒るはる承づ影変のとす奥。までこ町もすく響容中し、尻研究すもと民のるりをとで、北の研究会。ごとので方の明生、南大立会協な皆 法教ら活島西の場

奥尻島災害復興研究会



青苗港 マス漁船団出港 昭和30年頃